

産業建設教育常任委員会 行政視察報告

産業建設教育常任委員会の行政視察を10月31日、11月1日の2日間の日程で行いましたので概要を報告いたします。

1日目、石川県珠洲市では、「里山里海を活かした観光施策について」の視察研修を行いました。

珠洲市は、能登半島の最先端に位置し、人口が約1万3千人、高齢化率51.3%と人口減少が急激に進行している市です。観光入込客数ですが、コロナ前の令和元年度において、総入込客数が約107万人、内、宿泊客数は約6万2千人と、日帰り客が大半を占めている状況であります。

珠洲市には3つの道の駅があり、全て指定管理者が運営しております。指定管理料は3箇所とも低額で、赤字補填もしないとのことで、経営の順調さをうかがえました。

道の駅の来場者を増加させる方法についてですが、それぞれの道の駅には、「売り」があり、「ボランティアガイドの派遣」や「希少な大浜大豆を活用した商品開発」、「揚げ浜式製塩法を伝える塩田体験」など、ここでしか買えない、ここでしか体験できないものが用意されていました。他にはない「オンリーワン」の道の駅になることが、旅行会社の目にとまりツアーに組み入れられ、来場者の増加、消費額の増加に繋がっているのだなと感じました。

次に、引退競走馬の終の棲家を提供する「奥能登・馬プロジェクト」もとても良い事業だと感じました。JRAの有名な元調教師の角居氏が行っており、循環型農業や福祉・教育、観光、移住など多様な活用が見込めるとのことです。現在は3頭ですが、将来的には、60頭まで受け入れる構想とのことでした。体験型観光の「馬との触れ合い体験」はかなり人気があるとのことでした。馬主をはじめ、競馬ファンなどが珠洲市を訪れる目的となり、関係人口の増加も図られると感じました。

あわら市の半分の人口で、その半分以上が高齢者という過疎化が進んでいる中、珠洲市に視察に訪れて、初めて奥能登ならではの地域性、自然を活かした観光施策を打っていることが分かりました。馬プロジェクトにあるようにサステナブルツーリズムからレスポンスブルツアーの先駆けに取り組んでいけるのもこの地域ならではの実感しました。道の駅は、高速道路が通っていないこともあり、スポット的な小型の道の駅でしたが、地域資源を活かした経営努力していることを強く感じました。

2日目、富山県魚津市では「ゲームのまち推進事業「つくるUOZUプロジェクト」について」と「魚津市ワーケーションモニター事業について」の視察研修を行いました。

魚津市は、富山県の東部に位置し、人口約4万人、高齢化率は34.2%と、人口減少が激しい状況にあるとのことでした。

まず、「ゲーム」を取り上げた経緯ですが、魚津市は平地が少なくコンパクトな街で、そこで若者の雇用先を増やしたいことから、広大な企業用地を必要としない、成

長産業で IT 産業の中でも幅広い年代から興味関心の高いゲーム産業に着目したとのことです。

ゲーム制作やゲームクリエイター育成への手順・方策については、まず、著名なクリエイターの講演会のような「ゲーム産業に興味を持ってもらうイベント」や、小・中・高校生向けのキッズプログラミング教室を開催し、底辺拡大を図ります。その次に興味がある初心者向けのゲーム開発入門講座を開催します。次にゲーム開発体験イベントや、プロによる指導教室などを行い、個人のスキルアップを図ります。そして実際にゲームを開発していくという手順で行っていました。

これまでの成果としては、6年目ということで、企業誘致までは至っていませんが、ゲーム販売オンラインサイトで有料ゲームを販売するサークルが誕生している外、市民1名が創業し、ゲーム企業へ数名が就職しているそうです。

市民や企業からの反響については、「世代間交流に繋げたい」「認知症の予防に活用したい」など機運が高まりをみせており、地域や企業のイベントへ出展要請があるそうです。

「つくる UOZU プロジェクト」は、今後更に発展が期待される分野であり、それを6年前より始めていたことに改めて驚かされました。また始めた当初はプログラミング中心の事業であったが、企業との連携により、ゲームグラフィック、サウンドクリエイター、アニメ等総合的に広がりを見据えて、いろいろな課題はあるにしても今後が楽しみで魚津市ならではの特色ある事業になると感じました。

最後に「ワーケーションモニター事業について」です。

事業の概要は、ワーケーションモニターを県外から募集し、市内においてワーケーションを実践したモニターに謝礼を支払い、モニターからはレポートを提出してもらい、HPで公表するというものです。

本事業の目的ですが、ワーケーションを通じて「関係人口の創出拡大と地域活性化を図ること」、「魚津市を体感してもらい、移住を検討してもらうこと」「魚津市トライアルオフィスなどの利用促進を図ること」、「モニターが発信するレポートを通して利用施設や周辺環境改善を図る」というようなことを目的としていました。

本事業の今後の取り組みとし、ワーケーション制度を導入している企業及び実践している企業人とのさらなる連携を目指し、様々なスキル・ノウハウ持つ企業人材と地域住民、市職員が連携を図り、地域活性化を目指したいとのこと。最終的には移住に繋がることを目的としていますが、関係人口は確実に増加しており、都会の人から見た魚津市の魅力の再発見もあるとのこと。

過去に5万人あった人口が現在4万人をきり、将来的に3万人は維持したいとのことから、ゲーム推進事業やワーケーション事業などを多岐にわたり積極的に行っている事がうかがえました。ワーケーションのリピーターはあるが、なかなか移住に結びつかないという現実も目の当たりにしました。

以上2カ所の視察研修は、今後の参考として大いに役立つ内容であり、有意義であったことを報告します。

以上、当委員会の行政視察の報告といたします。